

第2章 地区別計画

●「地区別計画」の推進について

(1) 地区別計画推進委員会について

地区別計画に掲げられた各目標の実現を目指しつつ、第3期計画推進にむけた意見交換を活発に行う「**地区別計画推進委員会**」（以下、「地区別委員会」という。）が開催されています。委員は、連合自治会、地区社協、民生委員・児童委員、保健活動推進員、地域の活動団体の代表者など、地区の実状に合わせて組織されています。

既に地域では、自治会活動を中心にさまざまな活動が行われています。担い手の確保や世代間の連携などの共通課題を解決するとともに、これまでの地域活動を継続し、団体間の連携体制をより強化することなどが求められています。地区別委員会では、そうした地域課題の解決に向けた取組を行うとともに、計画の推進に係る各種情報の共有や意見交換を行い、地区別計画の目標に向けた地域の取組状況の把握や振り返りを行います。地区別委員会は、各地区の実状に応じて年間2～11回開催され、平成28年度は計画推進とともに、地域の課題や具体的取組について活発な意見交換を行いました。また、地区別委員会で話し合われた内容をより多くの地域の方々に周知するため、「**地区別計画推進委員会通信**」を各地区2回程度発行し、連合自治会等の協力の下、地区内での班回覧等を行いました。

(2) 地区支援チームについて

緑区では、区役所の運営責任職・保健師や社会福祉職、区社協責任職・職員、地域ケアプラザの所長・地域活動交流コーディネーター・生活支援コーディネーター・地域包括支援センター職員（社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等）で構成される「**地区支援チーム**」が地区ごとに編成されています。そして、「地区支援チーム会議」を毎月開催し、チームメンバーが日常業務の中で把握した地域の情報や、地域展開している事業の情報、そこから分析した地域の課題などを共有し、解決策や取組について検討しています。こうして、住民主体の地区別計画の推進に向けた地域の取組支援、地区別委員会や地域住民の活動支援をしています。

(3) 地区別計画推進委員会連絡会の開催

地区別委員会の委員長、地区支援チームのチームリーダーなどが参加する「**地区別計画推進委員会連絡会**」を4月と10月に開催しました。地区別委員会の開催状況やスケジュールの説明、各地区の取組内容などの情報交換・意見交換などを行いました。

(4) 地区別計画推進活動報告

地区別委員会では、地区別計画の目標に向けた地域の本年度の取組状況を振り返るとともに、各地区の推進状況をまとめた「パネル」を制作しました。

(5) 地区別計画推進に向けた各種制度の活用

地区別計画推進に向けて、区役所・区社協等による事業費補助制度を活用しています。平成24年度から継続している「地区別計画推進費（→P.9参照）」とあわせ、さまざまな補助金等の制度を活用し、地域住民の主体的な取組による地区別計画がさらに推進していくことを目指しています。

●平成28年度 地区別計画推進状況

＜平成28年度 地区別計画推進委員会 開催状況＞

地区名	委員数	回数	開催日	地区別委員会での主な意見
東本郷	32人	3	6/23 9/30 1/20	<ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者、認知症、こども子育ての3分野における委員会を設置し、課題の共有と今後の取組について検討をすすめている旨の報告。 ◆一人暮らし高齢者への関わり方は難しい。自治会・老人会等も含め、連携をとる体制を構築していきたい。 ◆隣近所が“ちょっと変だということ”を知らせることができる関係を作っていきたい。
鴨居	28人	2	7/15 11/12	<ul style="list-style-type: none"> ◆黄色いリボンによる安否確認の取組について、継続してより活用していくためには工夫している自治会の取組を知ることも必要。 ◆地域にあった方法で見守り、支え合いについて取り組むべき。 ◆「チョイボラ」について検討。
竹山	23人	2	6/7 12/6	<ul style="list-style-type: none"> ◆新たに小学校からも委員として参加。授業の中で地域の方から子どもたちに教えてもらう機会を持つことができている。 ◆ふれあいさろん竹多久を様々な世代に周知するための工夫をしていきたい。 ◆認知症の方が家族や地域の方と共に集える場所をつくりたい。
白山	30人	8	原則 毎月第 4土曜 日(4月 を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ◆災害時安否確認、災害時に「近助」でできることについて意見交換。 ◆自治会の活動に参加したことのない家庭を巻き込むことが課題。意識の改善が大切。まずは顔の見える関係を作りたい。小さい単位でのつながりづくりをめざしたい。 ◆5つの目標に対して具体的な取組を進める分科会のような形で検討できないか。
新治 中部	30人	2	7/7 2/10	<ul style="list-style-type: none"> ◆「防犯キャッチフレーズ」の取組を始めて4年が経過し、地域にも定着している。子どもにとっても、家族と一緒に防犯や地域について考えるきっかけになっている。 ◆高齢者の見守りに関しては、日頃の活動だけでは全てを把握することは難しいため、地域の事業者等と連携した見守り活動を検討していく。
三保	36人	2	6/25 12/10	<ul style="list-style-type: none"> ◆新聞販売店と地域見守り活動に関する協定を結び、高齢者のみならず子どもも含めた地域の見守り活動をすすめた。 ◆気軽に立ち寄れるカフェなどの居場所づくりが必要だが、場所・人材確保・体制づくりなどの課題がある。検討委員会を立ち上げ、具体的に進めていきたい。
山下	21人	2	6/15 1/16	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの見守りについては、高齢化に伴う担い手確保が課題の中、子ども自身が、防犯に対する理解と力をつけることができるよう、防犯ワークショップを開催。 ◆「山下ネットワークサロン」では“誰もが参加できる、みんなの居場所”として、世代間交流の場になっているサロンもあり、今後も工夫して取組を進めていきたい。
新治 西部	29人	2	9/12 2/14	<ul style="list-style-type: none"> ◆健康づくりに関する取組の報告(マルシェを通じた地域の仲間づくり、元気づくりステーションの活動を継続することによる地域のつながり、活動の場づくり) ◆地域の中で、子どもや一人暮らし高齢者など見守りの必要な方への具体的な取組について考えたい。 ◆就労している保護者が多く、子どもたちの欠食や放課後の居場所など課題がある。3期計画の中で支援について考えたい。
十日市場 団地	29人	2	7/12 12/1	<ul style="list-style-type: none"> ◆「お茶のみ会」等に参加しない高齢者をどのように見守っていくか課題である。 ◆自治会として各世帯の実態を把握できていない。助け合うには基礎データが必要。 ◆推進委員に自治会長にも加わってもらい、検討できないか。 ◆災害時の安否確認方法について様々な取組が自治会ごとに行われていることを共有。
霧が丘	26人	2	6/25 12/3	<ul style="list-style-type: none"> ◆自治会、管理組合の協力のもとサロンを開いており、たくさん人が来ているが定着するのは難しく、工夫が必要。 ◆健康チェックについて、PRにより若い人も含めて参加者を増やしたい。 ◆見守りネットワークの取組を続けている。自治会でも見守りを行っている。
長津田	31人	2	6/11 11/26	<ul style="list-style-type: none"> ◆「長津田ささえあいネット」では新聞販売店のほかエリア内の介護事業者にも協力事業者として登録してもらい、地域の見守り体制の充実をはかった。 ◆若い世代も参加できるような地域活動を行い、地域とのつながりを作るきっかけを提供していくことで、次世代の担い手の育成をしていきたい。
合計	315人	29		